

第4回日本在宅看護学会学術集会 報告

2014年11月15日（土）、第4回日本在宅看護学会学術集会が東邦大学看護学部において開催され、約473名の訪問看護実践者と在宅看護の教育・研究者、地域包括ケアに関わる看護師が集まりました。

第4回の大会長には現場で訪問看護師として働く、阿部智子（訪問看護ステーションけせら）高砂裕子（南区医師会訪問看護ステーション）の二人がダブル大会長としてその任にあたり、大会長講演は「風を捉えて、地域に羽ばたく在宅看護」、吉田千文氏（聖路加国際大学）による教育講演「地域包括ケアにおける在宅看護の役割～アクションリサーチから～」が行われたほか、ふたつのシンポジウム「在宅看護実習はどうあるべきか」および「覚悟を決めた訪問看護師たち」ではシンポジストの発表後、活発な質疑応答が行われました。

また、日本在宅看護学会主催による特別セミナー「訪問看護の現場に生かす、特定行為とその研修について」も開催される一方、日本褥瘡学会在宅医療委員会合同企画による、特定行為にも関わるセミナー「訪問看護における褥瘡に関する危険因子の評価」として今、まさにタイムリーなシンポジウム・セミナーの開催でした。

さらにこの日の学会の総会では日本在宅看護学会の一般社団法人設立が承認されたことから、「倫理セミナー」も開催されました。

一般演題発表は口演23題、示設21題が発表され、どの発表会場も座席が不足するほど盛況でした。今回も前年度に続いてJANHC3Awardを設け岡部明子氏、中野真由美氏、野村悦子氏の3名が受賞されました。

